

## カナダ交流訪問団 団員決まる！！

深川国際交流協会では、主要事業の一つとして、深川市の支援を受け青少年海外派遣事業を毎年継続実施しています。

昨年もカナダ・アボツフォード市内にホームステイをしながら学校に通い、数々の貴重な体験そして楽しい交流をしてきました。

6月3日、市民会館において、本年度の青少年カナダ派遣事業の選考会が行われました。本年度も定員を超える応募があり、応募された方は、皆さん訪問に積極的で、その資質に甲乙つけがたく選考には大変苦慮しましたが、面接・作文での選考の結果、10名（高校生6名・中学生4名）の方が団員となりました。

今後、派遣する団員は、事前・事後研修及びカナダでの研修（7月27日～8月11日）に参加します。派遣の報告については、次号の広報誌と秋の報告会で皆さんにお伝えする予定です。

団員名	学 校	学 年
渡辺 真代	深川西高校	3年
木根笑由美	深川西高校	2年
加藤 末希	深川西高校	1年
本間 文	深川西高校	1年
柏倉 加奈	深川東商高校	1年
横山 由絵	深川東商高校	1年
川合 沙季	一已中学校	3年
柿嶋恵一郎	一已中学校	2年
亀上 春香	一已中学校	1年
島影 志保	深川中学校	1年
引率指導者名	所 属	
渡辺 優	深川国際交流協会事務局長	
武藤 優子	深川国際交流協会理事	

## 2000年総会開かれる ～活動4年目にむけて～

4月18日（火）プラザホテル板倉において、2000年度深川国際交流協会の総会が開催されました。

渡辺事務局長の司会で始まり、所用で欠席した芳賀会長に代わって紺野勝榮副会長が「アボツフォード市との姉妹都市提携で、深川市も国際交流が盛んになっている。今後も皆さんの協力をお願いしたい」と挨拶。続いて、来賓の河野市長から「今年開催される『2000地球環境米米フォーラム in ぶかがわ』では、米どころ深川を世界に発信したい。今後ともアボツフォード市との有意義な絆を強めていこうと考えているのでよろしく」と祝辞を述べ、紺野勝榮副会長を議長に議事が進められ、盛会の内に終了しました。

引き続いての交流には、拓殖大学北海道短期大学のマイケル・マッコール客員教授ご家族の参加もいただき、土門理事の進行で小滝理事長の乾杯に始まり、和やかに懇談が続くなか谷口副理事長の結びの言葉で閉会しました。

## 《これまでの取り組み・活動の経過》

これまでの取り組み・活動の経過として、1997～1998年度の主な内容と1999年度の全内容を整理しました。

年月日	取り組み・活動の内容
1997.3.27	深川国際交流協会設立総会を開催
1997.7.30～8.12	青少年カナダ交流訪問団を派遣
1997.11.13	「深川市とカナダ・プリティシュコロンビア州 アボツフォード市との国際交流姉妹提携の提言書」
1997.11.23	青少年カナダ交流訪問団報告会を開催
1998.4.30～6.26	フレーザーバレー大学生5名、教員1名（ジョナサン・シャンクス）来深
1998.7.27～8.11	青少年カナダ交流訪問団を派遣
1998.11.13	第9回北海道・カナダ姉妹都市会議 並びに第88回カナダ・スクール（芦別市）に理事長出席
1998.12.13	第2回青少年カナダ交流訪問団事後研修 青少年カナダ交流訪問団報告会並びに国際フレンドシップフォーラムを開催
1999.2.16	北方圏センター国際理解講演会を深川市と共催
1999.4.20	総会を開催
1999.4.30	第1回理事会を開催
1999.5.11～6.30	やさしい海外旅行英会話教室を拓殖大学北海道短期大学と共催
1999.5.13	国際理解部会を開催
1999.6.4	青少年カナダ交流訪問団選考会を開催
1999.6.10	青少年カナダ交流訪問団事前研修等打合せ会議を開催
1999.6.11	国際理解部会を開催
1999.6.12	第1回青少年カナダ交流訪問団事前研修
1999.6.14	インターナショナルデーを国際ソロプチミスト深川と共催
1999.6.19～7.26	第2回青少年カナダ交流訪問団事前研修 第3回～第8回青少年カナダ交流訪問団事前研修 青少年カナダ交流訪問団壮行会
1999.7.27～8.11	青少年カナダ交流訪問団を派遣
1999.8.30	広報部会を開催
1999.9.	広報誌（Vol.5）の発行
1999.9.18	第1回青少年カナダ交流訪問団事後研修
1999.9.28	広報部会を開催
1999.10.4	第2回理事会を開催
1999.10.6	第2回青少年カナダ交流訪問団事後研修
1999.10.18	国際理解部会を開催
1999.10.20	第3回青少年カナダ交流訪問団事後研修
1999.10.27	日加親善協会副会長エアード・フラベル氏来深
1999.10.29	第10回北海道・カナダ姉妹都市会議に出席
1999.11.14	青少年カナダ交流訪問団報告会を開催
1999.11.25	広報部会を開催
1999.12	広報誌（Vol.6）の発行
1999.12.18	広報部会を開催
2000.1.25	第3回理事会を開催
2000.3.17	広報部会を開催
2000.3.24	国際理解部会を開催
2000.3.30	ふれあい部会を開催
2000.4.3	海外交流部会を開催
2000.4.11	第4回理事会を開催
2000.4.17	ふれあい部会を開催
2000.4.18	総会を開催

## 《決算および予算》

1998年度の決算と1999年度の予算です。より活発な活動を行っていくために、交流会費用と会議費用が昨年度より多くなっています。

### 【収入の部】

項目	1999年度 決算額	2000年度 予算額	摘要
会費	819,000	810,000	個人会費 ¥3,000 × 70名、賛助会費 ¥10,000 × 60口
委託料	500,000	500,000	深川市より
負担金	1,500,000	1,500,000	海外派遣個人負担金 ¥150,000 × 10名
補助金	3,612,324	5,524,000	深川市より ¥4,024,000、財自治体国際化協会 ¥1,500,000
雑収入	91,477	1,730	預金利息等
前年度繰越金	1,237,675	1,667,270	
合計	7,760,476	10,003,000	

### 【支出の部】

項目	1999年度 決算額	2000年度 予算額	摘要
事業費	5,856,922	8,500,000	
カナダ派遣費	5,112,324	5,700,000	青少年海外派遣事業
交流会費	344,616	500,000	国際理解講演会、インターナショナルデー、 ホストファミリー研修会
その他事業費	399,982	2,300,000	初心者英会話教室、青少年カナダ交流訪問団壮行会および報告会、 インターネット活用事業（HP開設、広報誌発行、電子メールによる 情報交流および翻訳サービスの手法研究等）、 拓殖短大生涯学習国際シンポジウム支援事業、その他の事業
事務費	5,727	50,000	通信費、備品他
会議費	230,557	400,000	総会、理事会、各事業部会、その他会議費
予備費	0	1,053,000	
合計	6,093,206	10,003,000	

## 《2000年度事業計画》

### 1. 市民国際理解を深める事業

- (1) 市民国際理解を深める事業
  - ・市民を対象にした、国際理解を深める講演会等の開催や共催
- (2) 外国人とのふれあい事業
  - ・インターナショナルデーの開催
  - ・AET（外国人英語指導助手）とのふれあい事業の実施
- (3) ホストファミリー研修会開催事業
  - ・ホストファミリー研修会 & 交流会
- (4) 英会話教室開催事業

### 2. 市民の海外派遣による交流事業

- (1) 青少年海外派遣事業

### 3. ホームステイ受け入れによる交流事業

- (1) 『2000 地球環境米米フォーラム in ふかがわ』参加外国人の受け入れ事業
- (2) フレーザー・バレー大学研修生受け入れ事業
- (3) その他留学生等受け入れ事業

### 4. 国際交流の基盤づくり事業

- (1) 新規会員の勧誘および各種行事への協力要請活動
- (2) ホストファミリーの新規開拓と登録事業
- (3) 通訳・翻訳ボランティアの新規開拓と登録事業
- (4) インターネット活用事業を利用した電子メールによる情報交流と翻訳サービスの手法の研究
- (5) インターネット活用事業を利用した協会広報誌の充実発行
- (6) インターネット活用事業を利用した協会ホームページの開設事業



# 米米フォーラム・田植えフェスティバル

取材担当：寺下良一（広報部会広報編集委員）

米作りを通して、環境問題や国際協力の重要性について広く訴えようと『2000 地球環境米米フォーラム in ふかがわ』が5月27日・28日の両日深川市で開催され、松田農場（一巳町）の大型水田で田植えフェスティバルが行われました。

地球環境平和財団と米米フォーラム in ふかがわ実行委員会が主催したもので、28日に行われたメイン・プログラムの田植えフェスティバルでは、世界53カ国から参加した駐日大使や大使館関係者、その家族などが一堂に会し、ホストファミリーと地元小学生が加わって約400人が水田に入り、一斉に田植えをしました。

この日は朝からあいにくの雨模様。しかし、手に苗を持ち、靴を脱いで素足で水田に入ると、見る見るうちに約2反歩（2,000m<sup>2</sup>）の水田に苗が植えられました。小学生は泥だらけになりながらも大奮闘。中には「田植えははじめて」という人もいました。

## チェコ駐日大使：ヨセフ・ハヴラムさん

ハヴラムさんは、日本のチェコ大使館に赴任して5年目。奥さんをチェコのプラハに残しての単身赴任。「忙しくて、なかなか日本語の勉強ができない」とのこと。日本の印象は、四季がはっきりしていてチェコと似ているそうです。冬にはスキーなどのウィンタースポーツを楽しみ、春は若葉の息吹に感動し、秋は紅葉を楽しむなど、緩やかな山並みと平野からなる地形も似ているそうです。違うところは、隣接する国の国境まで数百キロで、車で数時間で行けることだそうです。

チェコではお米を食べる機会は少ないということです。それでもハヴラムさんは「ごはんは好き。寿司もOK」。田植えははじめてということでしたが、大張りきり。「靴を脱いで素足で泥の中に入るのは大丈夫ですか？」と聞くと、「まったく問題ない」とキッパリ。お世話役のホストファミリーよりも早く素足になると、ズボンが膝の上までまくりあげてスタンバイ。ハヴラムさんは一番先頭でしたから、用意した苗を持つと率先して水田に入り、黙々と苗を植えはじめました。農業を営むホストファミリーの野原一幸さんが教える必要はまったくなし。小学生4人とホストファミリーの2人、そしてハヴラムさんの計7人のチェコ班は、決められた25m<sup>2</sup>ほどの区画に20分ほどで苗を植え終わりました。手足を泥だらけにしながらか「素晴らしい」を連発。はじめての田植えに感動した様子でした。「雨の中で疲れたでしょう」の問いかけにも「素晴らしい体験。まったく疲れない」との返事。小学生たちも、野原さんの手際よい指導で、最後までやり遂げました。みんなで野原さんに感謝をしながら喜び合っていました。そこで記念写真をパチリ。（表紙写真）

ヨセフ・ハヴラム大使は、野原一幸さん宅（一巳町昇保）にホームステイしました。「素敵な奥さん。それは夫が素晴らしいからだ。おばあちゃんも素晴らしい」と野原さん一家に感激したようでした。ハヴラムさんは背の高い人で、布団から足が出てしまうのではないかと、鴨居に頭をぶつけてしまうのではないかと、言葉の壁は厚いのでは…。すべての心配は無用でした。シャワーも布団も食事もすべてOK。そして何より、野原さん一家の心温かいもてなしが嬉しかったそうです。「必ずしも言葉を十分に分かり合える状態ではなかったが、誠意のなかで寝食を共にすることが、どんな言葉で語りかけるより深い心の絆を生むもの」と実感したそうです。

全員が参加した歓迎パーティーでハヴラムさんは、ホストファミリーの野原さんご夫婦と歓談しながらも、その合間をぬって各国の大使などのテーブルを回り、挨拶を交わし話し込むなど、外交官らしい一面も垣間みしました。

「秋の収穫祭にもぜひ来てほしい」「スケジュールをぬって実現させたい。その時には妻も一緒にいたい・・・」

長身でダンディーな紳士ヨセフ・ハヴラム大使。野原さんの奥さん（美恵子さん）の肩を引き寄せ、ほお擦りしながら別れを惜しんでいた姿が印象的でした。

再び会いましょう、収穫祭の秋に・・・。

## リベリア大使館：ベン・シエー・トエ・コリンズさん

リベリアの主食はお米。日本の米のように粘り気はなく、タイ米や韓国の長粒米のようにパサパサした感じ。ゆがいたり、炒めて食べるそうです。日本のような水田はほとんどなく、種もみはバラまきで「丘陵地の畑にこうしてまくんだ」と手振り身振りを交えて説明してくれました。収穫は、日本のように稲わらの根元から刈り取るのではなく、穂の部分だけ刈り取るのだそうです。収穫量は少ないそうですが、日本からの海外派遣協力隊の指導で、最近では収量が年々上がっているそうです。日本の水田と似て

いるものでは、沼地や湿地を利用して種もみをまく方法があるようですが、安定しないようです。

ベンさんは、米作りに大変関心が高く、昨年開催された輪島市での田植えフェスティバルにも参加しています。余裕十分に田植えを楽しんでいました。

ここからは、ホストファミリーとなられた方々の体験談です！

---



## 『一期一会』素晴らしい出会い

中屋 健二（納内町）

---

世界各国の多くのみなさんが参加され、深川市民と深く心を重ね、単語をつなぎながら会話をし、素晴らしい出会いでした。

我が家では、娘がイスラエルの国旗を作り、イスラエルの大使館職員のミス・イデットを歓迎させていただきました。わずか一晩の交流でしたが、言葉が通じないという不安もイデットが持参してきたワインと、我が家が用意した日本酒ですっかり心がとけあい、和やかな雰囲気でお話し合い、イスラエルの文化や子供たちの教育環境、徴兵制度での国防の義務のこと、日本との文化や環境の違いをたくさん感じることができました。また、イデットの家族の話や宗教の話など、12時過ぎまで語り合いました。

『一期一会』という言葉がありますが、素晴らしいご縁をいただき、家族みんな感謝しています。秋の開催を楽しみにし、国際交流を深めたいと思います。

---



## 身近に感じた世界～新たな期待を含め

佐々木重吉（一已町）

---

今回、ホストファミリーを引き受ける機会に浴しましたが、事前研修どおり普段の気持ちで接することができ、大変有意義な勉強になったと思っています。

私の受け入れたパラグアイ特命全権大使とその夫人は、とても明るく親しみやすく、気さく、気配り等心豊かで、出した食事はほとんど食べていただき、片言での会話でも十分心が通い合い、世界を身近に感じさせていただきました。

この企画にあたり、大成功に導いた関係機関、支援願った道、農協連合会等のみなさまに心から感謝申し上げます。

『2000 地球環境米米フォーラム in ふかがわ』が、この地の成果にとどまらず、タイトルどおり世界の環境改善に、そして食糧問題“米”の見直し等につながることを念じ、大使と関係者にその面でのご健闘を期待するところです。

9月23日・24日の交流会、稲刈りフェスティバルでの再会を楽しみにしながら、みなさんと共に温かくお迎えしたいと思います。

---



## ホームステイを受け入れて

多田 弘美（多度志町）

---

この度、『2000 地球環境米米フォーラム in ふかがわ 田植えフェスティバル』で多くの外国の方をホストファミリーとして受け入れたのは、今までにない経験ではなかったでしょうか。

今回、この話があった時、受け入れをするかしないか迷いました。まだ田植えが終わっていないかもしれない、その事により十分な受け入れ体制が取れないかもしれないと、外国の方々に迷惑がかかると思ったからです。

私の家には、デンマークの大使館職員のトーマス・H・クリステンセン氏夫妻をお迎えしました。彼らは日本に約1年半前に来られたそうです。日本語も多少話せるということで、会話そのものは大きな問題はありませんでした。食事にしても、週に何回かは日本食を食べているそうで、何でも食べられると聞いて安心しました。特に、自家野菜を喜んで食べてくれました。

トーマス氏は、8年前に新潟の大学で1年間勉強をしたことがあり、その時に朝・昼・晩とごはんを食べていたそうで、「ゴハン、好きデス」と話していました。また、身長が192cmあり、寝るときに布団から足が出ないか心配して本人に聞いてみると、「大丈夫デス」と言ってくれたので、そのまま寝てもらいましたが、夜は、東京では体験できない田舎特有の音楽(?)カエルの鳴き声にビックリしていたようです。「これは何の音ですか?」と聞かれ、「カエルの鳴き声です」と答えると、頷いて「良い音楽です」とジョークを言っていました。都会では味わえない田舎の体験をしたようです。

私の家では、以前にもタイの農業研修生を受け入れたことがあり、はじめての経験ではなかったのですが、問題なく受け入れをすることができました。いずれにしても1泊2日という短期間ではあったけれど、お互いに信頼関係ができ、新たな友人ができました。

今後、多くの方がホストファミリーの体験をして、良い思い出を残してはいかがでしょうか。

---



## 我が家に大使がやってきた

渡辺 滋典（音江町）

この度、53カ国の在日大使館から大使の方々をはじめ、関係者のみなさん総勢100名が深川にやってきました。大使といえば、一国を代表して両国の交渉事にあっている訳でしょうし、たいした偉い人たちがやってくるものだと感心していたのは我が家がホストファミリーの依頼を受けることになった時まで。さー大変！！もしかしたら本物の大使が我が家にやってくるかもしれない。外国からのお客さまといえば、一度タイ国の農業青年がJICAの研修で2泊3日ホームステイを受け入れた経験がありますが、70歳の母以下、我が家においてはご先祖様以来鎖国状態が続いていたも同然で、例えるならペリー提督が来るみたいなもの。たぶん、他の受入れ農家も大なり小なりそうだったのではないのでしょうか。

今回、お越しいただくことになった国は中米のホンジュラス。在日4年の60歳代のセビージャ大使ご夫妻をお迎えしました。

親しみに満ちた笑顔と優しさで、5歳と2歳になる娘たちも、生まれてはじめて接する外国の方にも関わらず徐々に慣れ、手をつないで一緒に歩いたり、お別れにほっぺにチューをしてもらって、その後舞い上がってしまったり…。逆に、とても良いひとときをいただきました。当初、心配してつきなかつた食事のこと、住宅環境（トイレ・お風呂・寝室）のこと、どれもちゃんと順応してくれましたし、寝具にいたっては、翌朝の片づけはもちろん、使用・未使用の分別までしてくださいました。思いやりに感謝感激です。我が家での滞在はわずか13時間でしたが、家族全員に心に残る大きなプレゼントと、余韻を置いていってくれました。

あごひげをたくわえたそのお顔はまさにサンタさん、美しいマリアナ夫人と共にうつっている写真の笑顔は、毎日我が家に微笑んでくれています。秋の再会が楽しみです。



## 米米フォーラム in ふかがわに参加して

小田 雅一（深川町）

5月27・28日の2日間「米米フォーラム in ふかがわ」にホストファミリーとして参加させていただきました。

以前、タイの方を受け入れた経験がありますので、さほど心配はしませんでした。インド大使館の一等書記官2名ということでしたので、日本語を話せるかが多少心配でしたが、27日ダーロンとラージャに直面し、慣れない英語で自己紹介をしました。しかし、返ってくる言葉は大変上手な日本語でした。それからは当然日本語で会話したのはいうまでもありません。

ホテル板倉での楽しかった交流会、28日の田植えは大使館員の2人、そして市内の子どもたちとの作業でしたが、大使館員の2人が子どもたちと楽しく過ごせたことは大変意義深いものがありました。

また、ホストファミリーとなれたのは、家族の理解があったからでした。気軽に受け入れをし、そして楽しい一夜を過ごせたことは私たち家族にとりまして思い出に残る体験でした。

秋にはまた、是非来ていただき、聞けなかったことをいろいろと聞いてみたいと思います。

こういう機会を与えていただいたことを感謝致し、お礼申し上げます。ありがとうございました。



## ホストファミリー研修会開催される

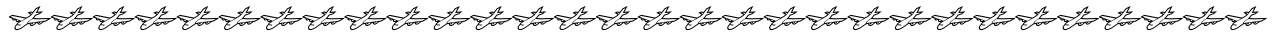
国際ふれあい部会 部会長 土門 裕之

ふれあい部会では、ホストファミリーという経験を通して外国人との交流や親睦を深めて頂きたいという思いを込めて、例年ホストファミリー研修会を実施しています。深川国際交流協会としては平成11年度最後の事業となったホストファミリー研修会を、3月30日に拓大において実施しました。また、平成12年度事業として、米米フォーラムでホストとなられる方々を対象に、在日大使館関係者を受け入れるための研修会を5月10日に拓大において実施しました。この報告では、主に後者の様子をご紹介します。

すでに皆さんもご存知と思いますが、米米フォーラムに参加するために在日大使館関係者(53カ国)が深川を訪問し、農業関係の方々の家庭にホームステイするという一大イベントがあり、そのためにホストとなられる方々が一同に会して研修を受けられました。交換教授として拓大を訪れているフレーザー・バレー大学のマイケル・マッコール先生による、「外国人からの視点」という話から始まり、続いて、これまでホストとして外国人の方々を受け入れてこられた多度志の高桑さんの経験談を通して、外国の方々を受け入れるにあたり、「いつものように自然に振舞うことが大切」ということを多くの方々に認識して頂けたのではないかと思います。とは言っても、実際に受け入れるとなるとやはり心配事は尽きないもので、「言葉の壁を如何に乗り越えるか」「食事について」「習慣の違い」「宗教上の配慮」「風

呂場の使い方」など、数多くの切実な質問が続出し、当日の詳細な日程説明を含め、約2時間程の研修会を終えました。

フォーラム終了後、ホストとなられた方々や大使館関係者の方々の感想を伺うと、お互い初めは緊張と遠慮があったものの、心を和ます酒を酌み交わすうちに互いに打ち解け、言葉の壁を感じさせない豊かな時間を過ごされたようです。農業関係の方々の暖かい心と底力を、改めて思い知らされる研修会とフォーラムでした。ホストの皆さん、関係者の皆さん、本当にお疲れ様でした。



# カナダのフレーザー・バレーってなに?⑥

## - あなたも私も国際交流 -

広野 勝利

石狩平野の北部に位置する深川市は、母なる石狩川が貫流し、南にはイルムケップを頂とする父なる音江連山が東西に大きく横たわっています。この街は、私にとってどの角度からみても恵まれた環境であると実感しております。

今年7月には九州、沖縄において先進8カ国による首脳会議（サミット）が開催され、地球規模で起きている情報技術（IT）革命の功罪について、統一見解をまとめることになっているようです。

先般は、余市出身の毛利さんがスペースシャトルで2回目の宇宙飛行、地球を40分で1周という超高速飛行をされてきました。こうして地球は宇宙規模で小さくなりつつあります。

さて、私は4年前の1996年9月、現在姉妹都市であるカナダ、アボツフォード市との交流についての事前調査団員として訪問致しました。成長しつつある深川市の国際交流事業を深川市にふさわしい市民参加型で成熟

させようと、既に拓大と交流のあるフレザバレー大学の皆様のご協力で調査訪問をしたところです。英会話の出来ない私は、英会話電子手帳持参の渡辺優事務局長さんと同行させていただきました。通信情報技術が進歩拡大すればする程、地球が小さくなり、人々の心の交流、地域文化やスポーツ、地域経済などの地域国際交流が重要になっておりますし、これらを事業目標としたいものであります。

河野深川市長さんは、ご自身がこれまで青年団活動や社会教育活動の歴史を通して、人づくりや世界に目を開く国際人づくりの重要性を説き実践されてまいりました。

一昨年のアボツフォード市との姉妹都市提携は、深川市史上重要なエピソードであると、感動するものです。ホストファミリーの積極的な受け入れそのものが国際交流であると思います。つい先日は、深川市、地球環境平和財団などが主催した「米米フォーラム in ふかがわ」には、53カ国から大使

館員の方をはじめ深川市民と一緒に裸足での田植えは、とても素晴らしい国際交流でありました。

このように、いろいろな形で国際交流が芽生え、育ってきた要因として拓大とフレザバレー大学との交流があります。長い年月をかけての先生や学生の交換交流が、深川市における国際交流のベースになっていると考えます。

また、姉妹都市提携までの道程・歴史には、大学および諸先生、関係者の筆舌に尽くせぬ努力があると存じます。

これからは、市民が自由にカナダを訪れアボツフォードを知り、また海外からのお客様をお迎えし深川市の人と街の素晴らしさを知って頂きたいものです。

（次号、アボツフォードでの交流記につづく。）

